「委員間討議の試行実施に関するアンケート」集計結果

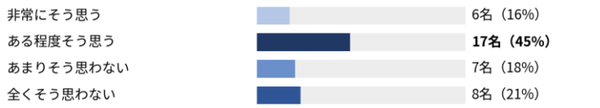
資料④

調査対象	回答期限	回答数	調査方法
議員 39 名（個人単位で回答）	令和８年９月 30 日（水）	38 名（議長を除く全議員）	オンラインフォーム

※割合は小数点以下を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合があります。　※自由記述は原文のまま全件掲載しています（明らかな誤字のみ修正）。理由欄は回答した選択肢ごとに分類しています。
※各記述の先頭の数字は回答者番号です。議席番号ではありません。同じ番号は同一の回答者の記述であり、「Q2 に同じ」「Ｑ２１にまとめて記載」などは、同じ番号の回答者の該当設問の記述を指します。

【閉会中の委員間討議】

Q1　閉会中の委員間討議の実施は、議会機能の向上（論点や争点の明確化）に寄与したと感じますか。



Q2　Q1. の回答について、その理由をお答えください。

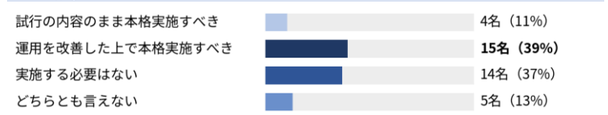
■非常にそう思う（6 名）
2　重要議題の浸透が図られた。
13　各委員の考え方や意見を聞き、自身の考え方との違いや観点等理解する良い機会となったと思う。
17　各議員の考えを議論し交わすことで新たな気付きを得ることができた。
27　理事者側との質疑だけでなく、委員それぞれの意見が分かり易い
34　委員と理事者間の質疑のみでは、その課題を取り上げなかった委員や会派の意見を把握しづらい側面があったが、その点を補完する議論ができたと感じました。

■ある程度そう思う（17 名）
1　委員間討議は、多様な意見の合意形成を図るという本来の議会の機能に資することと理解をしていることから、とても意義のある議会の取り組みであると考えています。
3　各議員が議論しているポイントが明確になりました。
10　他の議員の考えがわかり、自分との相違点が明確になったため。
11　皆さん、控えめな意見が多いから。
12　各議員から様々な視点からの意見を聞けた
18　他議員の考えや意見を聞くことができた
20　他議員の意見によって判断する事が出来たが、会派で意見をまとめてからでないと意見が出せない事もあることから議論が深まらない事があった。
21　テーマにもよりますが、その時の委員の共通課題があった場合は認識の共有化が図れ同じ課題認識の下で審議に繋げる点がメリットかと思います。
22　委員間討議の実施について、各議員に目的や考え、理解度がバラバラで熱量に違いがある。
23　議案書や予算決算もないので論点が難しい
28　他の委員の意見が聞けて自分自身の見識が深まる事は良いことだと思う。
31　議題における各委員の考え方を知る機会となった。
33　必須ではなく柔軟に対応
35　委員会全体の課題では、議論が活発におこなわれているところもあり、認識が深まった。
36　特定のテーマについて、他の議員の意見を聞くことができて勉強になった。
38　多くの議員が重要と考えているテーマについて率直な意見を交わすことによって、多様な角度からの議論が率直にできる機会となった。一方で、継続的な議論をしなければその効果は限定的になると感じた。

■あまりそう思わない（7 名）
4　議員間の討議は必要だが、ことさらそのための場を設定するのではなく、必要に応じて自然な形で行われるのがいい。採決前に自由に言い合える時間を設けるなど。
5　議論をする環境としては評価したいが、議論後にどのような政策形成を経て委員会として決定権があるかと問われれば、その整理ができていない。そのため目標の見えない委員間討議になってしまうため。
6　議会機能の向上とまではいわない。
7　論点や争点を明確化できるように能力が向上したとて、それが役立つ場面が議会機能にない。
9　あるテーマについて、短時間かつ不用意な状態で討議に臨むため、全体としてまとまらない。自分自身も知見のないことには加わりにくい。そのような時は言いっぱなしになる。私もそうだが、全体的に奈良市政に関し素養を持ち合わせていないように思われるから。
14　意見の集約化をしないし、論点整理もしないから

■全くそう思わない（8 名）
8　議論が深まらなかったため
16　単に意見の言いっぱなしに終わり議論が深まらなかった。
25　テーマへの意見表明にとどまり、討議（ある問題や議題について、参加者がそれぞれ意見を出し、論じ合う）という形にはなっていなかったように感じた為。
26　単に意見の言いっぱなしに終わり議論が深まらなかった
29　意見は出されるが、議論が深まらず、着地点が見えない

Q3　試行を経て、今後「閉会中の委員間討議」を本格実施すべきだと思います か。



Q4　Q3. の回答について、その理由をお答えください。

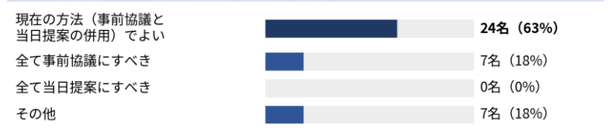
■試行の内容のまま本格実施すべき（4 名）
13　特に改善を要すべきと感じることはない。

■運用を改善した上で本格実施すべき（15 名）
1　Ｑ１では、現在、試行中なので「ある程度そう思う」としました。その理由は、テーマ設定とその討議をしたあとの議論の内容や、また、何らかの提案があった場合の対応の仕方など議論されておらず制度化されていないことからそのようにしました。手段が目的化しないようにもう少し委員間討議の中身を議論しなければならないと考えています。
11　テーマ選定の事前協議の締め切りが早すぎる点は、改善すべきと考えるから。
12　討議の議題と論点を明確にして討議を始める必要がある
20　事前協議にして議論を深めるため
21　時と場合に応じ、また委員会毎に事情は異なると思われますので、テーマが提起された場合は討議し、特になかった場合は無しで臨機応変に対応すればいい。
22　委員間討議で意見が多数で一致した場合、委員長から理事者に文書にて申入れを行うなどを実施すべきである。
27　現在の試行段階に於いて各委員会で改善すべき点があれば、改善の上で本格的に実施すべき
28　テーマ設定及び時間配分
31　各委員が意見を言っているだけで討議にまでなっていないと感じる為。
33　必要であるときに実施
34　討議の提案者としては色んな意見を聞けたことは収穫である一方、各委員が自己の意見を言いっぱなしで終わっている側面もあるように感じられたことから、例えば、委員長が討論で出た意見を要約して議事録として残すなど、何かしら討論内容を総括・記録する仕組みを作ってはどうかと思いました。
35　形骸化が想定されそうなとこは改善策を検討すべき。
36　討議の目的を明確にし、共有したい。合意形成を図るため、多様なアイディアを出し参考とするため、など。また、相応しいテーマがなければ無理に実施する必要はない。
38　テーマ設定：今後、市として大きな判断を求められる政策などを予め委員会として選出し、継続的に議論するなど工夫が必要。

■実施する必要はない（14 名）
4　おもしろい取り組みだが試行の結果、特に得られるものがないと感じた。
5　委員間討議の対象委員会は議決案件となる委員会での討議に絞った方が目的が明確になると考えます
7　同上。廃止すべき。
8　議論が深まらなかったため
9　議員力の向上に寄与するとは思えないから。
14　逆に実施する必要性があるなら説明してほしい。
16　Q21 の回答で述べます。
25　委員間で有意義な討論を行うためには、そのテーマについて、それぞれが大いに関心を寄せ、深い理解を持つことが必要である。前述の意見表明という形であるならば、委員会における質疑の中で既に行われているものと考える。
26　Ｑ２１にまとめて記載

■どちらとも言えない（5 名）
3　委員によって参加回数が違うので試行期間を半年延長するべきと感じる。
10　合意形成や政策提言に至るには程遠い気がするため。
18　もう少し、試行を続けてみたらと思う
23　テーマ設定が分からない

Q5　閉会中の委員会におけるテーマの選定方法はいかがでしたか。［現在］事前協議と当日提案（報告案件）の併用



Q5 で「その他」を選択した方の記述内容

14　場当たり的と感じた
16　Q21 の回答で述べます。
24　Q21 に集約します。
25　前述のように、委員間で有意義な討議を行うためには、そのテーマについて、それぞれが大いに関心を寄せ、深い理解を持つことが必要と考える。そうした意味において、テーマを事前に協議するか、当日提案にすべきかということは必ずしも重要ではなく、よってどちらとも言えない。
26　Ｑ２１にまとめて記載
29　Q3 の理由から
37　討議になっていないため

Q6　Q5. の回答について、その理由をお答えください。

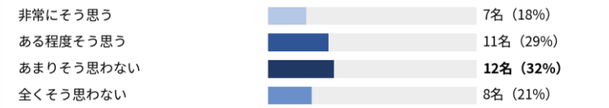
■現在の方法（事前協議と当日提案の併用）でよい（24 名）
1　当日の委員会でどのような質疑内容が争点となるのか見通せない場合があるので柔軟に対応できるようにしなければならないと考えています。
3　問題はないと思います。
6　事前準備ができることと、当日の案件には対応した方がいいと思うから。
9　委員会討議の必要性を感じないため、本理由も特に選択しない。
10　事前準備ができるのはありがたいが、当日提案ができることも必要と思うため。
11　原則は事前協議にして、当日提案も可能という、現在の方法でよいから。
12　当日の委員会で新たな論点が出るかもしれないので
18　事前協議と当日提案の併用でいいと思う。
21　事前に提起できるテーマもあれば、当日の理事者による所管事務調査の報告を捉える場合もあるため、現在の方法でよい。
22　委員会での報告案件、議案など各委員に共通した議題が望ましい。
27　当日にテーマが表面化することもあるため
31　報告に対するテーマについては事前に協議できないので。
33　柔軟に対応できるように
34　会派の意見を反映できるよう、基本は事前協議とするが、当日の議論によって生じた新たな課題についても取り上げられる余地は残すべきと考えるため。
35　事前協議は、委員長の采配が容易になるから。当日は共通課題が発掘できる可能性から。
36　準備ができた方が充実した議論となるので、事前協議が望ましいが、委員の同意があれば当日提案も可能、という形がよい。
38　大きなテーマについて継続的に議論すべきと考えるため、事前設定が望ましいが、理事者報告や当日の質疑を通じて重要と認識されたテーマについては取り上げるべきであると思う。

■全て事前協議にすべき（7 名）
7　範囲の広いところからテーマ選定されると委員間でテーマに対する知識の差が大きいと、発言の有無や深さに差が出る。
13　当日だと、突然テーマを言われても理解しづらいのでは。
23　事前準備ができるから
28　事前に準備が出来るのではないかと考える。

■その他（7 名）
14　Q5 と同様の回答
16　Q21 の回答で述べます。
25　上に同じ
26　Ｑ２１にまとめて記載

【会期中の委員間討議】

Q7　会期中の委員間討議の実施は、議会機能の向上（論点や争点の明確化）に寄与したと感じますか。



Q8　Q7. の回答について、その理由をお答えください。

■非常にそう思う（7 名）
1　議案採決にあたっての論点争点の理解が進むこと、また、修正案作りのための多様な意見の合意形成に資することからそのように思います。
11　会期後半の総括質疑などに役立つから。
13　Q２と同様
17　各議員の論点が明確になりより議論が深まるのではないかと思った。
23　会期中の内容にそった話し合いができた。

■ある程度そう思う（11 名）
3　予算に関する問題点が明確になった。
5　議決案件が含まれているため、各会派や各議員の賛否をどうとらえるかが議論のひとつの目標となる。委員間討議の中で論点を明確にすることに寄与できるため
18　他議員の考えや論点がクリアになり、自身の判断に役立った。
21　上程された議案において委員間討議をする課題点がある場合は議会機能の向上に寄与するものと考えます。
22　委員間討議の実施について、各議員に目的や考えの理解度がバラバラで熱量に違いがある。
27　Q2 の通り、理事者側との質疑だけでなく、委員それぞれの意見が分かり易い
28　他の委員の意見が聞けて自分自身の見識が深まる事は良いことだと思う。
33　議論が尽くせるか？疑問
35　委員会の課題が共通しているので、討議から深めることが可能。

■あまりそう思わない（12 名）
4　議員間の討議は必要だが、ことさらそのための場を設定するのではなく、必要に応じて自然な形で行われるのがいい。採決前に自由に言い合える時間を設けるなど。
8　議論が深まらなかったため
9　テーマによってはその本質を理解できないかたも見受けられるから。
10　分科会では議題がなく、討議がなかった。傍聴した他の委員会では、意見対立が激化しただけに見えるものもあった。
31　誰からも意見が挙がらなかったため。
34　所属した委員会では実施されず、また必要性も感じなかったため。
36　テーマが限られており、議論が活性化しないケースもあったため。
38　予算決算委員会分科会では、やはり、予算審査、決算審査に主軸を置いて大きなテーマを扱うべきだったが、所属分科会ではそのようにはならなかった。

■全くそう思わない（8 名）
7　Q2 に同じ
14　意見の集約化をしないし、論点整理もしないから
16　単に意見の言いっぱなしに終わり議論が深まらなかった。
26　単に意見の言いっぱなしに終わり議論が深まらなかった
37　議案の審議に重点を置くべき

Q9　試行を経て、今後「会期中の委員間討議」を本格実施すべきだと思います か。



Q10　Q9. の回答について、その理由をお答えください。

■試行の内容のまま本格実施すべき（7 名）
1　理事者との質疑だけでなく、委員間討議は議員間のコミュニケーションやスキル向上にも資すると考えます。
11　意見が少なかったとしても、やる価値はあるから。
22　討論は実質一方的なものになっており賛否を決定する前に、委員間での議論が必要と考えている。
23　今のところこのままでいいと思います

■運用を改善した上で本格実施すべき（11 名）
3　時間配分は検討の余地があるのかなと感じます。
21　実施すべきか必要ないかについてまだ明確に見えていないところであるが、現時点で閉ざしてしまう事もないかと考えます。
27　先述の通り、現在の試行段階に於いて各委員会で改善すべき点があれば、改善の上で本格的に実施すべき
28　テーマ設定及び時間配分
33　時間配分
35　持続継続できるように検討する必要はあると思う。
38　上記。

■実施する必要はない（16 名）
4　おもしろい取り組みだが試行の結果、特に得られるものがないと感じた。
7　Q2 に同じ
9　議員力の向上、議会改革に寄与するとは思えないから。
14　逆に実施する必要性があるなら説明してほしい。
16　Q21 の回答で述べます。
26　Ｑ２１にまとめて記載
34　Q8 と同様。

■どちらとも言えない（4 名）
6　今の方法では長すぎる。続きの時間ではなく別に日を設定して行う方法なら続けていいと思います。
10　討議に適切なテーマを選定できれば実施可能。
18　もう少し、試行をと思います。

【会期中の委員間討議（続き）】

Q11　会期中の委員会におけるテーマの選定方法はいかがでしたか。［現在］当日提案



Q11 で「その他」を選択した方の記述内容

9　委員会討議の必要性を感じないため、その他とした。
11　閉会中と同様に、事前協議と当日提案の併用にすべき。
14　場当たり的と感じた
16　Q21 の回答で述べます。
17　閉会中同様に事前と当日の両方でよいと思う。
24　Q21 に集約します。
25　前述のように、委員間で有意義な討議を行うためには、そのテーマについて、それぞれが大いに関心を寄せ、深い理解を持つことが必要と考える。そうした意味において、テーマを事前に協議するか、当日提案にすべきかということは必ずしも重要ではなく、よってどちらとも言えない。
26　Ｑ２１にまとめて記載
29　討議の内容が深まらない
37　現状ディベートの体になっていない

Q12　Q11. の回答について、その理由をお答えください。

■現在の方法（当日提案）でよい（19 名）

1　論点争点の多くは、当日の質疑の過程でしか明らかにならないためです。
3　問題はないと思う。
10　事前協議をするだけの日程の余裕がないと感じた。
18　事前テーマがある方が協議がしやすいこともあるが、当日提案でもよいのではないかと思います。
21　当日の所管事務調査の報告はなく提出議案が決まっている事から当日提案でよい。
22　委員会で付託議案を審議しているので当日提案で可能である。
27　此方も先述の通り、当日にテーマが表面化することもあるため
33　当日課題も取り入れられるから
34　会期中の委員会では不要と考えるため。
35　当日で十分可能である。

■全て事前協議にすべき（9 名）

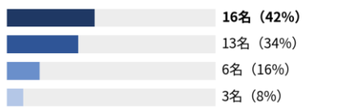
6　事前の準備をして意見をまとめたいから。
7　範囲の広いところからテーマ選定されると委員間でテーマに対する知識の差が大きいと、発言の有無や深さに差が出る。
13　閉会中と同様、事前にテーマを出しておく方が議論しやすい。
23　事前に準備できるから
28　事前に準備が出来るのではないかと考える。

■その他（10 名）

9　委員会討議の必要性を感じないため、その他とした。
11　事前協議の方が意見が出やすいと考えるから。
14　Q11 と同様
16　Q21 の回答で述べます。
17　事前にテーマが決まっている方がより議論が深まるように思う。
26　Ｑ２１にまとめて記載

【共通事項】

Q13　委員間討議のインターネット中継について



Q13 で「その他」を選択した方の記述内容

16　Q21 の回答で述べます。
24　Q21 に集約します。
26　Ｑ２１にまとめて記載

Q14　Q13. の回答について、その理由をお答えください。

■実施すべき（16 名）

1　議会は、市民に開かれた、分かりやすい議会であり、かつ、信頼される議会として、情報公開や説明責任を積極的に果たすことに努めなければならないと議会基本条例に規定されており、開かれた議会は奈良市議会のモットーです。
9　実施する以上はインターネット中継にて公開すべき。（中継があることで委縮する等、議員の資格がないのでは）
13　委員会開催中と同様ネット中継して、より議員活動を広報すべき。
14　全ての議論は市民に公開が原則だと思う
17　市民への透明性確保と発言に対しての責任感
22　中継しない理由が見当たらない。
25　例として、中継があることで発言を委縮すると書かれているが、議員は議会におけるすべての発言に責任を持つべきであると考える。従って委員間討議を行うのであれば中継すべき。
27　既にカメラも設置されているので、委員会の延長で中継されても良いと考えます
31　するのであれば実施すべき。
34　理事者にも聞いてもらう必要性があるため。
35　透明性の確保。
38　議会の透明性向上のためには中継すべき。忌憚なき議論のために中継すべきでないという意見もあるが、議員として議論に責任を持つためには中継すべきと考える。

■実施する必要はない（13 名）

4　どちらにもメリット・デメリットはあり、中継ありを試行したわけだがあまり実がなかったので消去法で選択。
7　そもそも委員間討議の必要性を感じない
8　議論が深まらなかったため
20　中継があることで発言を控えることが予想されるため
23　忌憚ない討議をするのなら必要ないかと思います。
28　中継が無いほうがざっくばらんに委員同士で話が出来ると思う。
33　突っ込んだ議論が出来る
36　中継は実施せず、終了後に委員長が討議の内容を報告するなどの形式がよいと思う。

■どちらとも言えない（6 名）

3　NET 中継することによるメリットを感じない。
10　委員間討議に意味がないといった趣旨の発言が聞こえる間は中継しないほうがよい。
11　総合計画検討特別委員会はインターネット中継なしで活発な意見が出ており、ひとつのやり方と考えるから。
12　中継がない方がより突っ込んだ議論ができるが、透明性確保の点では公開すべきである
18　中継があることで、自由発言がしにくくなるのではないかと思うが、市民への透明性確保のため中継も必要かなと思います。

■その他（3 名）

16　Q21 の回答で述べます。
26　Ｑ２１にまとめて記載

Q15 委員間討議が行われている間の理事者の出席についてどう考えていますか。

Q16　Q15. の回答について、その理由をお答えください。

■退席すべき（22 名）

4　理事者に時間をいただくほど大した議論は行われていない。
10　理事者の時間を拘束するのは申し訳ないから。
11　理事者が退席されている方が、意見を出しやすいから。
13　理事者も業務が忙しく、職務遂行の妨げになってはいけないと思うから。
16　理事者への質疑は一般的な委員会で行えばよい。
17　討議に参加しても聞くだけになる為、インターネット中継で視聴していただければよいのではないか
18　委員間討議なので、理事者は退席でいい。
22　委員間での討論に理事者を拘束する理由が見当たらない。
25　職員出席の必要性をあまり感じない、また職員の追加負担を避けるべきとの考えから。
26　Ｑ２１にまとめて記載
27　理事者側の負担になるため
28　理事者側も多忙と考えます。

■出席すべき（4 名）

14　委員の考えをなるべく理解しておく必要性があると思うから
33　理事者からも意見が必要
35　討議の内容を認知するほうがいいのでは。

■どちらとも言えない（12 名）

1　テーマや案件によって、理事者の同席がいる場合といらない場合があると考えるので、一律に決めない方がよいと考えます
3　テーマによると思う
7　Q14 に同じ
9　理事者出席のもとで実施したことがなく、未検証であるからわからない。
21　理事者の出席を求めるのであればテーマに応じた適切な理事者に絞る必要がある事からその場で決まるテーマでの調整は難しい。
23　どちらでもいいです。
31　不明な点が出た際に意見を求めることが出来る為。
34　委員間の討議のため、居ても居なくても議論内容に変わりがないため。ただし、傍聴を希望する理事者は残って頂いてもいい運用とすればいいと思います。
38　参考にして頂くためには出席していただくのが望ましいが、任意でよいと思う。

Q17　所要時間（およそ 40 分）についていかがでしたか。



Q18　Q17. の回答について、その理由をお答えください。

■長すぎる（14 名）

9　委員会討議の必要性を感じないため、長すぎるとした。
14　議論の中身に合うような時間となっていない
16　Q21 の回答で述べます。
21　実施回数が少ないため適切なコメントは難しいですが、実施時間は２０分程度であった。
25　実施してみて、それだけの時間がかからなかった為。
26　Ｑ２１にまとめて記載

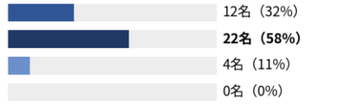
■適切（22 名）

1　テーマや案件によって時間の調整も柔軟にしてはどうかと思います。
3　問題がない
4　短いほうが望ましいが、これ以上短くしたら成り立たないため。
10　現在は時間が余り勝ちだが、今後足りなくなることもあると思う。
11　所要時間 40 分でいいが、1 テーマ 10 分以内と決めてもいいと考える。
12　議論の中身によって大きく変わる
13　活発に議論されて内容によっては時間延長も良いと思う中、逆に不活発な委員間討議もあったので、取りあえずの設定としては適切かと思う。
17　今のところ適切ではありますがテーマによって議論が深まり時間が足らない場合は委員長采配で延長してもよいと思う
18　そのテーマによって所要時間が変わるので、短い時間の時もあると思うがおよそ 40 分でいいと思う
22　時間枠的には必要であると考える。今後、馴染んでいく段階で検討すべき。
23　議論が何点かあっても簡潔に話し合えると思います。
27　特に時間の長短で、困った場面にあっていない
28　議論の進捗により臨機応変に対応すれば良いと思う。
33　今後の状況を踏まえて必要であれば時間延長も検討するべき
35　適切。

■短すぎる（2 名）

（記述なし）

Q19　議論のルール（意見の尊重・建設的議論・詰問の禁止）は守られていたと感じますか。



Q20　Q19. で「あまり守られていなかった」「全く守られていなかった」と答えた方にお聞きします。ルールが守られないことによる具体的な懸念はありますか。

■あまり守られていなかった（4 名）

14　特にない
25　そもそも議論（参加者が互いに自分の意見を述べ合い、物事の結論や解決策を探る）という形にはあまりなっていなかったように感じた。
37　意見の尊重や建設的な議論という段階までに至っていない

【その他（自由意見）】

Q21　その他、よかったことや課題に感じたことを自由にお答えください。

1　私たち議員が委員間討議になれることと、この制度を使いこなせることが課題と感じます。
3　もう少し試行期間を増やしてほしいと思う。
4　本来の審査過程に討論を盛り込んだり、理事者の反問権を積極的に認めるなど、普段の委員会活動に盛り込めればよいと思う。
7　議会では瞬発的な思考と言語化能力よりも、ひとつの物事について深くかつ体系的に考え、現実的で具体的な解決策のアイデアを生み出し、理事者との生産的かつ建設的な打ち合わせが必要だと感じている。それに即したコンテンツでないと現状では活かしどころがない。その場でのパフォーマンスだけが秀でる議員を生み出すことを強く危惧する。
9　心から委員間討議を楽しんでいる方は少数であると感じた。また、あらゆるテーマに対応できる議員が少ないのではないかと感じた。
10　各自が自分の意見を述べるのに終始しており、歩み寄りは期待できないのではないか。
11　委員間討議に積極的な会派と消極的な会派に分かれていると感じる。委員長による仕切りが大変である。
14　ない
16　現在の試行実施は「委員間討議」を行うこと自体が目的になっているために混乱を生んでおり、そのまま進めることに反対です。試行実施は中止し「委員間討議のあり方」について論議を仕切り直すことが必要と考えます。議員はそれぞれ、選挙中に掲げた政党・個人の公約、市民から寄せられる願いについてどのように実現するかを考え、発言・行動するとともに、行政をチェックし、様々な提言などを行っています。議員間で協議し一致点にもとづく合意形成に努力することは大切だと思いますが、そのことと、異なる考え方のすり合わせをめざすことを日常の基本方向として扱うことは別の問題です。「委員間討議」を行う場合、具体的課題、目的や必要性、討議時間や公開の有無など事前に委員間で協議し合意の上ですすめるべきです。したがって、現行の試行実施はすみやかに中止し「委員間討議」のそもそものあり方について、改めて論議をやり直すことが必要と考えます。
17　事前にテーマがあった方が議論が深まるように感じた。
21　委員間討議のテーマが提起された際には討議するとのスタンスでいいと思います。
22　総合計画も委員間で議論しブラッシュアップをしていくべきで、その他重要な計画についても議決事項にして委員会間で議論すべきである。
23　自分が気がついていないことの議題があって事前に調べて勉強になって良かったです。
24　委員間討議を行うことを目的にするのではなく、委員間討議が必要となる課題が生じた際に、事前に運営協議も行って進めることが大切と思います。現在の試行実施は中止し、委員間討議のあり方について協議することが必要ではないかと思います。
25　理念については大いに賛同するが、委員間での話合いにより合意形成を図り、政策立案・政策提言につなげるための手法としての委員間討議実施には相当のハードルがあるものと痛感した。
26　現在試行中の委員間討論は、行うことが目的となっており、必要性や討議の先に何を求めるのかといった議論が欠落しているように感じます。議員間での一致点に基づく執行部への要望活動などはこれまでも議員有志で行われてきており、その時点で特段の必要性が生じていないにもかかわらず、一律的に委員間討議を行う必要性は感じられません。そもそも議員はそれぞれの思想信条や公約に基づき議会活動を行っており、その中で一致点に基づき合意形成を目指すことはあれど、異なる意見のすり合わせを日常の基本方向とすることには疑問を感じます。以上のことから、現行の試行実施は中止した上で、委員間討議の在り方について議論を仕切り直すことが必要と考えます。
27　各委員が積極的に意見を交わすことで、今後の奈良市の発展や課題について、よりブラッシュアップされていくと感じた
29　現在の試行実施は、まず「委員間討議をおこなうこと」ありきが主になっているように思います。このまま進めることにあまり重要性を感じません。基本は、委員会で質疑や質問においてそれぞれの立場から奈良市の姿勢を質していくことに注力し、その上で委員会として討議すべき案件が出てくればみなさんの意見を聞いて討議するのが基本であるべきだと思います。私たち議員はそれぞれ違う意見を持っています。その立場から、委員会や本会議で市民のために市政を質すのが本来の役割ではないかと思います。質疑・質問の後に、意見やテーマを出しても議論が深まらず、意見のすりあわせになるのではないでしょうか。定例化しなくてもみなさんが「これは委員会としてさらに議論が必要」と思われる課題や問題が起こった時、「委員間討議」がおこなわれるべきではないかとおもいますので、今の在り方は中止すべきと思います。
38　継続的な議論を行い、政策提言や予算決算審査につながる内容にすべきと思う。